



農地の集積策には

創立新海クラブ 鈴木 守

問 昨年、農地バンク法が成立し、農地中間管理機構は、人・農地プランの作成を決定化し、プランには機構をどう利用するか示すよう規定しています。担当手にまとまりた農地を提供し、生産効率の高い経営を育てるにはプランと機構による農地集積は必要不可欠とされ、実際に調整にあたるのは市・JA・農業委員会などになることだと思います。いずれもプラン作成に関わり合いがあり、担い手に農地を着実に集め、規模拡大に結び付けるには、市の支援や機構との緊密な連携が必要です。市におけるプラン策定について、農地集積に対する基本的な考え方と施策について伺います。

答 (市長)：現在、市では農地を守ついくことと並行しながら、まちづくりをしていくといった双方のバランスをどう取るかが大きな課題です。本市における農業は、集約と集団化を図っていく必要があります。農地の利用集積については、農業委員会と連携し、今後も認定農業者及び地域の主体的な担い手を中心に行つてまいります。市における人・農地プランについてまでは、25年度末に1地区で策定いたしましたが、必要に応じて改訂してまいります。

集約と集団化を図る

・執行権の侵害について
その他の質問



リニューアルした上今泉コミセン

・交通対策について
その他の質問



電気自動車の購入意欲を後押しする



これからの公共施設の運営は

市政改革の会 山口 良樹

問 現在、市では公共施設を策定することともに、公共施設のあんしん基金を創設して、将来にわたって公共施設の在り方にについて検討されていますが、これからの公共施設の管理・運営について市の考えを伺います。

答 (市長)：市内には公共施設が多数ありますが、今後の維持管理を調査した公共施設白書を策定次第、白書に基づき管理・運営を行います。また、公共施設使用料等に関する基本方針も定めてまいります。

答 (市長)：現時点で、どちらが優位であるという結論には至りませんが、低価格化と水素ステーションの設置が進めば、燃料電池車の優位性が高まると推測します。

答 (市長)：現時点で、どちらが優位であるという結論には至りませんが、低価格化と水素ステーションの設置が進めば、燃料電池車の優位性が高まると推測します。

答 (建設部次長)：路面下空洞調査は、特殊な車両を走行させ、路面上からレーダーなどを用いて道路を掘削せずに非破壊で探査を行い、得られたデータを分析することで空洞を発見するものです。

答 (建設部次長)：路面下空洞調査は、特殊な車両を走行させ、路面上からレーダーなどを用いて道路を掘削せずに非破壊で探査を行い、得られたデータを分析することで空洞を発見するものです。

問 路面下空洞は、道路の地下に発生した空洞のことですが、この空洞が原因による道路陥没が全国で年間5千件も発生していると言われています。路面下空洞は目視など日常点検では発見できませんが、近年調査技術が向上し、非破壊で調査できるようになりました。



路面下空洞対策を

公明党 福地 茂